

Design Methodologies to the Wayfinding System of Public Transport Networks in West Japan - Sign Systems in the Transfer between Trains and City Buses -

李, 子龍

<https://doi.org/10.15017/1807049>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名	李 子龍			
論 文 名	Design Methodologies to the Wayfinding System of Public Transport Networks in West Japan - Sign Systems in the Transfer between Trains and City Buses - (西日本における公共交通機関のネットワークのサインシステムの構築の方法) - 鉄道とバスの接続のために展開して -			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	森田 昌嗣
	副 査	九州大学	教授	都甲 康至
	副 査	九州大学	教授	平井 康之

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

博士(芸術工学)の学位申請のために提出された本論文は、複雑な利用動線となるターミナル駅空間における公共交通機関間の円滑な接続のためのサインシステムによる情報提供のあり方に着目した研究である。日本では、国土交通省が魅力あるまちを創出するための方策の一つとして、地域公共交通ネットワークの活性化及び再生など、利用者の移動の便利性と円滑化の向上のための公共交通ネットワークの再構築を計画している。また、「わかりやすい」、「使いやすい」、「移動しやすい」という公共交通ネットワークの再構築は、まちづくりや観光施策と連携することによって、地域ブランドとまちの感性価値を高めることだけではなく、観光立国の戦略に実現のための重要な役割を果たすと期待されている。そこで、本研究は、ターミナル駅における鉄道とバスの円滑な移動を支援するサインシステムの構築とその感性価値を明らかにすることを研究の目的としている。論文の第1章は、公共交通機関のネットワークの現状を把握し、既往の関連研究を整理し、専門用語を規定し本研究の目的及び研究の進め方と方法、その枠組みを示している。第2章と第3章では、本研究の事例調査対象として西日本の政令指定都市において駅特性に共通性が多い、九州最大の都市・福岡市の博多駅と日本有数の観光都市・京都市の京都駅での調査結果から、鉄道とバスの乗り継ぎの公的サイン類の分布特性と利用特性を分析し、サイン配置面の「連続性」「統一性」「分かりやすさ」「見やすさ」「確認しやすさ」を、サイン情報面での「情報の理解しやすさ」「情報のシステム性」「情報の優先性」を抽出している。第4章では、博多駅と京都駅の分布特性と利用特性を比較することで共通特性と個別特性を明らかにし、調査したサイン類の再分類を行い解決すべき課題を見出している。第5章では、前章までの一連の研究結果に基づいて鉄道とバスの円滑な移動を支援できるサインシステム構築のための「街の位置づけ」、「駅の現地調査」、「コンサインシステムのアプローチ」、「案内サービスのネットワークの拡大」の4つのサインシステム構築のための原則を導き、この原則に基づいた公共交通機関のネットワーク型サインシステム構築方法の提案に結びつけている。そして、最後にネットワーク型サインシステムが、ターミナル駅における「利用者(ビジター)」「駅空間」「公的サイン」に対応する「個人価値」「空間価値」「情報価値」の感性価値を引き出すことの必要性を示唆している。第6章は、本論文の終章として、研究の結論とまとめ、そして今後の課題と展望を記している。

以上、本研究は、身近でありながらも利用者が多く複雑な動線となることから、わかりにくいとされるターミナル駅空間における公共交通機関間の円滑な接続のためのサインシステムについて考究し、利用者にわかりやすく乗り継ぎ環境を形成するためのネットワーク型のサインシステム構築のための4つの原則を導くなど、交通機関におけるネットワーク型サインシステムの計画設計のための有用な方法を示した研究として高く評価できる。

よって、博士（芸術工学）の学位に値すると認める。